



◇新たにフォーラムの運営委員となった大山と申します。「育ちと学び」44号から倉林順一さんの編集のお手伝いをしていきます。以後よろしくお願いいたします。

今年の年賀状の冒頭に「一陽来復」の文字を記しました。ご承知のとおり「一陽来復」とは、「冬が終わり春が来ること」「新年が来ること」のほかに「悪いことが続いた後で幸運にむかうこと」でもあります。私たちにとって今年こそ良い年であるように心の底から願うばかりです。

ところで、「一陽来復」のお札で知られる神社に、新宿区西早稲田の穴八幡宮があります。道を隔てた文学部キャンパスに1979年から4年間通っていた私は、授業の合間などにこの通称・穴八幡（あなはちまん）の境内でボートと過ごすことができました。

いつもは第一学生会館にあったサークルの部室で友人たちと共にいることが多いのですが、部室に誰も来ない時や一人になりたい時は、この穴八幡か本部図書館の閲覧室に行くのが常でした。どこに行っても学生がいる早稲田界隈ですが、穴八幡の境内で学生を見ることはめったにありません。ひっそりとした境内の冷たい石の腰掛けに座って一人過ごす時間は、万事落ちつかない東京の生活の中で心

の安まるひとときでした。だから、このお札を求めて冬至には多くの人でごつた返すことなど知りませんでしたし、かつてこの境内で自らの出自に悩む青年が焼身自殺をしたことを知ったのはずっと後になってからでした。

大学卒業後37年続けた教職を昨年三月に終了し、かねてより思い描いていた「日々旅を栖とする」ことを目論んでいましたが、コロナでそれも儚く砕け散りました。そのかわり、父が耕していた小さな畑で野菜を育てる楽しみを覚え、収穫の喜びも知りました。

先の見えない不安が世間を覆い、場当たり的なキャッチコピーが心を惑わす現状ですが、「一陽来復」を念じつつ地に足のついた言行を心がけ、いずれ「片雲の風に誘われ漂泊の思い」のままに一人で旅する日々が来ることを夢見ながら過ごしたいと思えます。

フォーラム会員の皆さまにとつても、これからの日々が安寧で実り多いものになることを願ってやみません。

（高崎市 大山 仁）

◇街路樹の葉が色づき、秋が深まってまいりました。初夏の頃、カンパのお札の手紙をいただきありがとうございます。

私の方、コロナ禍の中、家の小さな畑で野菜を育てたり、けっこう忙しくしていました。秋になり、深澤先生とのお別れはとても残念でした。「ひろせ川教室」には読み聞かせスタッフとして関わらせていただき、お

元気なころは送り迎えをしていただいてました。昨年の今頃、満月の月を見ながら子ども本の話をしたこと、恩師が読み聞かせをしてくれたこと、いろいろ話しました。精一杯生きることを教えて下さいました。寒い季節になりました。どうぞご自愛ください。

（前橋市 小川 たつ子）

◇コロナ禍で大変な状況ですね。

私も昨年9月に東京でのアルバイトを期間満了で終了し、安倍前首相の置き土産である「教員免許更新（2度目）」の講座をオンラインで受講していました。10年期限で3万円以上かかるこの制度は、当初全国の教育長協議会も意見書をだした程の問題だったのに、安倍辞任とともに葬り去って欲しかった…。

時間があつたので、日本学術会議のIPに掲載されている提言の中から、22年度から始まる高校の新科目『公共』についてのもの2つを読んでみました。また、12月26日民研の「コロナ禍での教育実践」フォーラムも視聴しました。感想がまとまったら後送します。コロナが拡大する一方ですが、みなさんどうぞ健康にご留意の上活動下さい。

今年が良い年でありますように…

（富岡市 中束 作蔵）